

令和6年度 第7回 豊田市稲武地域会議全体会 会議録

- 日 時 令和6年10月17日（木）午後7時00分～8時45分
- 場 所 稲武支所 団体会議室
- 出席者 委 員：安藤直人、今泉喜規、石橋佳子、櫻井麻沙子、佐々木祐次、
高崎太一郎、瀧澤育夫、土本隆雄、土屋桂子、中拓二、深見友和、
三江元博
（欠席者）：海野浩、西尾昌直、宮島明菜
事務局：梅村支所長、岡部副支所長、柄澤副主幹、鈴木担当長、原田主査

■次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
（1）提言検討について
- 4 その他

■議事（要約）

- 3 協議事項
（1）提言検討について

事務局から実施したアンケート調査の結果について報告。

また、前回の会議で提示した、委員から提案された取組内容案を基に、取組内容の精査について協議。

各委員からの意見は以下のとおり。

①アンケートについて

- ・稲武への愛着で「自然」という理由が多く出ているが、その真意が知りたい。
また、公園や遊び場が欲しいと出ているが、どんなものを実際に欲しているのか考えないといけない。
- ・利便性が悪いことで、逆に犯罪に巻き込まれる恐れがないなど、親の安心になっている部分もある。市街地で暮らす友人の子どもは、子どもだけでイオンに遊びに行って高価な物を親に黙って購入したり、SNS で出会った子に親に内緒で会いに行ったりしていると聞いた。
- ・中学生向けアンケートの結果から、住みやすい（60%）けれど住みたくない（15%）理由が何かあるのではないかと思った。住みやすいと思うのなら、その印象をずっと持ってほしい。
- ・住みたくないと思う理由の一つとして、住まないほうが良いと思うようなことを親が言っているのではないか。
- ・子どもには広い世界を知ってもらったうえで、稲武は良かったと思ってもらえば良いと思う。そう思うような種をいかに子ども達の中に作るか考えることが大事。
- ・自身の子ども時代を考えると、公園があっても行かなかった。みんなクラブ活動とかをしていた。

- ・中学生向けアンケートでは、地域活動に参加している子どもがほとんどで、参加した子がやりがいを感じ、楽しいと感じているということは、今現在、関わりを持てているということなので、これを継続していけたら良い。

②取組内容について

- ・子どもが求めるものだけを実現するのではなく、親や地域の人々の思いや関係は必要だと思う。
- ・課題①「学びの場、経験の場の不足」の中の「地域の住民が地域の子どもと関わる」ということはとても大事。地域の中で出来る体験（鮎つかみなど）で、子どもに関わって何か教えることができると思う。
- ・課題②「地域の良さを経験する機会の減少」の中で、お祭りに関し、地域文化の伝承の機会を作るため、広く祭りボランティアを募ると良いと思う。若い人たちが地域外からお祭りに来てもらって盛り上げられたら良いと思う。
- ・課題⑤「子どもの預け先・居場所などの支援の不足」は子ども達が過ごしやすい居場所という以外にも、親目線で安心安全な場所ということがキーワードになってくる。
- ・その他の意見で出ている「小中一貫校を作る」という意見で、学校機能をどちらかの場所にまとめれば、空いた施設を遊び場に転用できるのではないかな。
- ・児童館を小学校内に作るというのは現実的に難しいのか。子どもの居場所の近くに公共施設があるのは良いと思う。移住者から見れば魅力の1つになる。今のシルバーさんの見守りをスライドして活かせないか。

4 その他

- ・各委員より、所属団体での活動予定などについて情報提供。

次回開催：令和6年11月14日（木）午後7時 稲武支所 団体会議室